

3.3.2 キャプチャファイルの保存

キャプチャファイルを保存するには、メニューバーより「File→Save」または「File→Save As」を選択するか、ツールバーより「名前をつけて保存」ボタン（）をクリックします。

ファイル名を変えずにそのまま保存する場合は「File→Save」を選択します。別のファイル名や、異なるキャプチャ形式で保存する場合は「File→Save As」を選択するか「名前をつけて保存」ボタンをクリックします。いずれの場合も、キャプチャファイル保存画面が表示されます。

●キャプチャファイル保存画面



①「保存する場所」のプルダウンリストから、キャプチャファイルを保存する場所を選択します。また、②「ファイル名」ではテキストボックスに、保存するキャプチャファイルの名前を入力します。そして、③「ファイルの種類」のプルダウンリストから、拡張子を選択します。なお、キャプチャファイルのデフォルトの拡張子はpcap（wireshark/tcpdump形式）です。

さて、パケットを大量にキャプチャしたときなど、そのまま保存すると、キャプチャファイルのサイズが大きくなり過ぎて、ファイルを操作するのに時間がかかることがあります。このような場合は、パケットの範囲を絞って保存することをお勧めします。

保存するパケットの範囲は、④「Packet Range」欄で指定することができます。この欄の行と列に、それぞれラジオボタンが配置されています。

行の部分と列の部分のマトリックスを組み合わせることで保存対象のパケットを指定します。

表3-14：キャプチャファイル保存画面のラジオボタン

・行に配置されているラジオボタン

ラジオボタン名	内 容
All packets (すべてのパケット)	キャプチャしたすべてのパケットを保存します。
Selected packet (選択されたパケット)	メイン画面のパケット一覧部で選択されているパケットを保存します。
Marked packets (マークされたパケット)	マーク機能 (P138参照) を使ってマークしたパケットを保存します。
First to last marked (最初から最後にマーク)	最初にマークしたパケットと最後にマークしたパケットとの間にあるパケットを保存します。
Range (範囲)	パケットの保存範囲を指定する式をテキストボックスに入力します。 例) 5番目、10～20番目、および30番目以降のパケットを保存したい場合は、「5,10-20,30-」と入力します。
Remove Ignored packets (無視されているパケットを取り除く)	この項目にチェックを入れると、パケット一覧部でIgnore機能により無視されたパケットを取り除いた状態で、保存することができます。

・列に配置されているラジオボタン

ラジオボタン名	内 容
Captured (キャプチャしたもの)	キャプチャしたすべてのパケットを保存します。
Displayed (表示したもの)	メイン画面のパケット一覧部に表示されているパケットのみを保存します。

以上の操作を行った後、[保存] ボタンをクリックすると、ファイルが保存されます。

(参考) Wiresharkが対応しているキャプチャファイル保存形式は、次のとおりです。

```
* libpcap, tcpdump and various other tools using tcpdump's capture format
(*.pcap, *.cap, *.dmp)
* Accellent 5Views (*.5vw)
* HP-UX's nettl (*.TRC0, *.TRC1)
* Microsoft Network Monitor - NetMon (*.cap)
* Network Associates Sniffer - DOS (*.cap, *.enc, *.trc, *.fdc, *.sync)
* Network Associates Sniffer - Windows (*.cap)
* Network Instruments Observer version 9 (*.bfr)
* Novell LANalyzer (*.trl)
```